

KPG IJ印刷用搬送機開発

既存輪転機に追加改造提案も

ナローウェブ印刷加工機で定評のあるKPG（東京都台東区、☎03・3834・2560）はこのほど、デジタル印刷用搬送機「DPシリーズ」をリリースした。

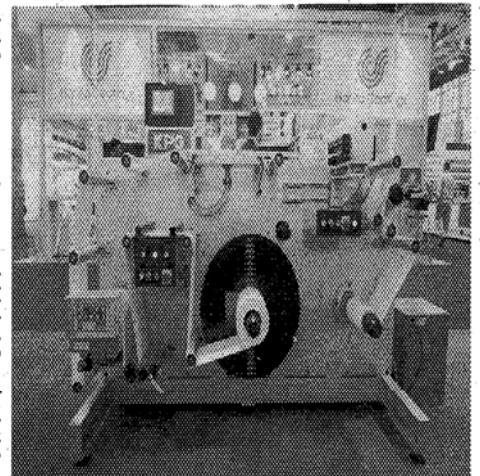
新発表の「DPシリーズ」は、デジタルインクジェット（IJ）印刷ヘッドを組み込むことを前提に設計されたシステムで、小ロットのラベル印刷を低コストで実現する。最低限のダウンタイムで高品質の印刷ができ、印刷会社は小ロット、短納期の顧客からの注文に迅速に対応できるといふもの。

搬送システムそのものは、同社の30年以上の特許印刷機的设计と製造の経験を持つスタッフによって研究開発されたもので、KPGの印刷機と同様の加工

技術が組み込まれている。この9月に欧州で先行するかたちで、「ラベルエキスポ」で公開し、欧米のラベルコンバーターに注目を集めた。

搬送幅は現在250mmと400mmの2種類を標準装備し、250mm幅仕様では、最大印刷幅210mmのIJ印刷ヘッドを含む提供と、各種IJ印刷ヘッドに対応する搬送機のみも提供も可能。印刷速度は毎分15〜80枚で、デザイン、色数、解像度、IJ印刷ヘッドの種類等に応じていく。

同搬送機はモジュールベースで設計され、最もシンプルなタイプでロール・ツー・ロールのIJ印刷機能を基本としている。オプションとして、ロータリーダイ装置、セミロータリー・ダイカット装



「ラベルエキスポヨーロッパ09」で公開

置、ラミネート装置、カス巻き装置、裏スリッター、シートカット、コンベヤーなど、これまで多くの実績があるフィニッシング（加工）技術も提案していく。

置、コールドフォイル装置、ホットフォイル装置なども提案していく。同搬送機は粘着ラベル原反、フィルム、メタリックフォイルなどへの印刷加工機にも

なる。

今後、同社では既存のKPG輪転機およびコーパック製の輪転機に、IJ印刷モジュールを追加・改造していくといった提案もしていく予定。これによりインラインで印刷済みまたは印刷無しのラベルに可変情報やフルカラーの可変イメージの印刷が可能に。特に、可変イメージの印刷はブランドや製品のバリエーションに容易に対応でき、仕事の幅もこれまで以上に広がるといえる。